令和７年度第１回山形市男女共同参画審議会会議録

日　時　　令和７年６月５日（木）午前１０時～午前１１時５５分
場　所　　山形市男女共同参画センター　５階視聴覚室

Ⅰ　出席者

１　委員（１２名）　柿﨑委員、佐藤（善）委員、中村委員、中嶋委員、中川委員、中森委員、高須賀委員、塩野委員、菅野委員、渡邉委員、佐藤（朋）委員、森山委員

※欠席委員（３名）　上條委員、田中委員、髙橋委員

２　幹事（２名）　伊藤企画調整部長、高橋男女共同参画センター所長

３　書記（４名）　遠藤副所長、板垣係長、大石主幹、後藤主査

４　運営事務員（２名）　佐藤事務員、山本事務員

Ⅱ　傍聴者

１　一般傍聴者　　０名

２　傍聴した記者　　０名

Ⅲ　会　議

１　開会　　遠藤副所長

２　企画調整部長あいさつ　　伊藤企画調整部長

３　委嘱状交付

４　会長・副会長選出　　会長：柿﨑委員、副会長：田中委員

５　会長・副会長あいさつ　　柿﨑会長より（田中副会長欠席）

６　専門部会設置・委員指名　　柿﨑会長・田中副会長・高須賀委員

７　報告

令和６年度事業報告について

事務局より資料１に基づいて説明

―主な質疑―

（委　員）ファーラ市民企画講座の実施について、以前はもっとたくさん応募する団体があったはずだが、少なくなった原因はあるのか。また、事業の制約がきついところもあるが、最近はどうなっているのか伺いたい。さらに、市民企画講座にかかる事業予算も使い切る必要があると思うが、そのあたりはどうなっているのか伺いたい。

（事務局）ここ数年、市民企画講座への応募団体は少なくなってきているが、要因の一つとして、以前応募いただいた団体における構成員や活動形態の変化があるのでないかと思っている。
以前、応募団体より事務手続きが煩雑であるといったご指摘もあったことから、書類や手続きに関する簡素化・合理化に努めている。さらに、申込方法についてもメールでの申込も可能するなど、事務の効率化も進めている。今後ともご利用いただく団体の立場になって、もう少し工夫できるところはないのか引き続き検討していく。

（委　員）連携中枢都市圏連携事業による広域活用について、利用ゼロの市町が解消されたのはとても良かったと思うが、各市町に対する働きかけをどのような形で行われ、それが功を奏したのか伺いたい。

また、講座受講者について、オンライン受講可能とするのは、遠方の方にとっては非常に使いやすく、例えばどうしても中座しなければならない時間があり、少しでもいいから聞きたいといった需要に応えていただいたと感じたが、いかがか。

（事務局）連携中枢都市圏の市町への周知については、男女共同参画センターで実施しているすべての事業について、紙媒体のチラシとチラシデータを男女共同参画担当課に送付している。

ただ、圏域内市町において、男女共同参画に関する専門部署が少なく、各市町ホームページにも山形市男女共同参画センターのリンクを張っていただいているところとそうでないところがあることから、より積極的に、特に新しい取り組みについては重点的に周知していく。

オンライン受講については、利便性の高い手段と考えており、講師を交え、オンライン受講の可否については必ず検討しているが、来所をためらってしまうような講座などについては、必ずオンライン受講できるような機会を提供するようにしている。

今後とも１人でも多くの受講者の方にご参加いただけるように、積極的に取り入れていく。

（委　員）事業に関しては、できる限り６市７町の皆さんに参加していただきたいと思っているので、ホームページのバナーなどに載せていただけるような働きかけを行っても良いのではないか。

令和５年度における第４次プランの進捗状況について、防災士養成講座を受講した方やワーク・ライフ・バランス等出前講座の実施回数なども伸びていることから、市民の皆様の意識がだんだんと醸成されてきており、特に防災においてはみんなで関わっていきましょうということの意識醸成が高まったあらわれだと思う。また、男女共同参画センターが実施した小中学校向けの出前講座については、もうすでに令和８年度の目標は到達しているので、今後もっと学校教育の中でも取り入れていただければと思う。

（委　員）Ｗｏｍｅｎ’ｓ　Ｃａｍｐｕｓ令和４年度・５年度参加者への継続支援のうち、独フェス実行委員会の若者のニーズに合った大規模婚活イベントへの参加者が１５９名と人が集まったと感じるが、企画や広報の仕方、また結果はどのようになったのか伺いたい。

（事務局）行政が主催する婚活事業については利用が伸び悩んでいたりしているとは伺っているが、

このイベントについては、市でも協力はしたが、企画広報すべてを女性人材育成事業に参加いただいた民間の方が実施した。婚活事業のノウハウを生かしながら、ＳＮＳを使った広報を行ったところ、１５９名にご参加いただいた。たくさん来ていただくとその分たくさん出会いがあるらしく好評であった。

その後の成婚率等については、出会いの場やチャンスだけを提供して、そのあとはもうイベント参加者に任せるというスタンスであったため、あえて追跡はしていないとのことであった。

（委　員）令和７年度も実施するかどうかだが、民間の方は様々なノウハウをお持ちなので、継続するのであれば引き続きお願いできれば良いと思う。民間のノウハウを行政の方で取り入れて実施しても、やはり堅さが残るのでＷｏｍｅｎ’ｓ　Ｃａｍｐｕｓの参加者に活躍していただくためにも良いかと思う。

このような場に参加することによって人と人との繋がりというのもできるし、そういう成果は非常に大きいと思う。

（委　員）Ｗｏｍｅｎ’ｓ　Ｃａｍｐｕｓ令和４年度・５年度参加者への継続支援のうち、Ｏｒａｄａの男性向けの魅力アップセミナーというのは、どのような活動なのか伺いたい。

（事務局）こちらにつきましても、女性人材育成事業の参加者自ら企画した事業で、内容としては、ファッションに関するカラーコーディネートやフィットネスインストラクターによるトレーニング、ビジネスにもプライベートにもいかせるＣｈａｔＧＰＴの使い方など男性が自分みがきをするというようなセミナーであり、すぐに活かせる内容であったと参加者からは好評をいただいた。

（委　員）小・中学校男女共同参画学習資料の活用状況について、その他という項目の内容を伺いたい。過去の会議資料では、家庭での活用という項目もあったが、これに該当するのか。

（事務局）授業と授業の間での配布、あえて時間を取って、取り扱わなかったけれども配布したなどが該当する。わかりづらい分類なので、記載を工夫したいと思う。

（委　員）お子様と保護者の方が一緒に読んでください。などの添書をつけてお配りし、家庭で活用した分も含まれているのかと考えて伺ってみた。

（委　員）学習資料の活用状況において、配布のみのパーセンテージが中学１年生は半数以上と　非常にもったいないと思う。
渡されたら読むという年代でもなく、細かく説明しないとなかなか頭に入っていかないのではないかと思うが、学校側でどのように考えているか伺いたい。

（委　員）もったいない、確かにそのとおりだと思う。小学生の場合、学年によって発達が全く違うので、学習資料の使い方については担任の先生がしっかり工夫をして、そして、ご家庭とも連携をして、その活用を促していくというところはとても大事なことだと思う。先生方の負担という面もあるので、そういった両面を考えながら、実施していければと思う。校長会等で各校長先生方にもお話していきたい。

（委　員）人権教育のさまざまな講座や授業などもあると思うが、学習資料を配付する際に今日はこのページのここをお話しますなど一言だけでも言っていただくと配布のみでなくなるのではないかと思う。

（事務局）小中学生の「きらり　かがやいて」につきましては、保護者の方の注目も高いので、学校の先生方には授業で、できる限り取り入れていただくよう働きかけていきたい。

（委　員）小学生・中学生のお子さん方の中で男女というのはどれぐらい気持ち的に違いがあるのか。

（委　員）今の学校では児童数が少なく、６年生も数名であるが、男女ともに同じような気持ちでやっている。その中で男性・女性というそれぞれの立場やそれぞれの大切さというところを学ぶ機会は話しており、小学校では差というところはあまりない。

（委　員）中学校においては、体付きが変わってくるが、差というのはあまり感じていないし、整列する際も出席番号順で男女別ではない状況である。また、制服に関してもなるべく男女の差をなくすような形に転換している学校も多くある。授業を受けている姿を見て、差があることはないようには思うが、気持ちの上では思春期でもあり、外からどのように自分が見られるのかというところについては気になってきたり、人を好きになるという気持ちも芽生えてくる時期なので、全く差がないということはないかと思う。

（委　員）先ほどすごく難しいとおっしゃっていたように聞き取れましたが、何が難しいと感じられるのかお伺いしたい。

（委　員）先ほど「きらり　かがやいて」のお話があって、中学１年生について半数以上は配布のみという現状の中で、難しいと感じるのは、時間が非常に窮屈になっている。働き方改革、部活動の地域連携、さらに今年度、入試制度の改変ということで、さまざまな変化に対する対応

が学校に求められる中で、時数の削減、標準時数になるべく近づけるようにという指導のもと、今までゆとりを持って組んでいた総合学習や学活、道徳といった枠が非常に狭まってきている。その中で、行事をより子供たちに楽しく充実したものになるようにとさまざま計画し、時間を費やしていく中で新しい教材を５月にいただいて、それを授業の中や総合、学活の中に組み込んでいくとなったときに、計画的に取り入れていこうとすると、少々負担感があるので、資料を開いて、このページを見てとはお話していると思うが、先生方からするとそれは配布のみという回答になっているのではないかと感じられるところである。

（委　員）市民の方は、小中学校の状況をお聞きする場ということがあまりないので、ご発言いただいてありがたく思う。

（委　員）山形市役所の男性職員の育児休業取得率について、令和３年から令和５年にかけて伸びているという状況が見られますが、イクメン応援説明会や市長からのメッセージなどの取り組みをされているということだが、取得率が伸びた要因として、どのような取り組みが効果的だったかをどのように分析されているのか伺いたい。

（事務局）お子さんが生まれた男性職員に対し、所属長同席のもと市長が直接メッセージを必ず手渡していることが一番大きいと考えている。また、法律で義務化される前から所属長が、対象の男性職員に何日育児休業を取るのか意向確認を必ず行っており、その取り組みが令和３年度あたりから定着してきたととらえている。最近では、山形市役所の男性職員では取得率が７割を超えているので、男性職員は育児休業を取得して当たり前といった雰囲気がやっと定着してきたのではないかと思う。

（委　員）働きやすい職場づくりのための啓発のうち、広報やまがたにおける事業所の紹介について、広報やまがたへの掲載依頼にあたり、働きやすい環境であるかなどリサーチしたうえで掲載しているのか伺いたい。

（事務局）掲載する企業の選定にあたっては、若者の採用に積極的な企業かどうかであるかが第一条件であり、山形の企業で積極的に若者を今後とも採用していきたいという意欲のある企業や若者が活躍している企業かどうかというところに着目している。

働きやすさ追求室とも連携し、面白い取り組みをしている企業などの情報収集をしながら、掲載する企業を選定しているところである。委員の皆様の中でもこのような取り組みをしている企業があるといった情報がありましたら、ぜひお寄せいただきたい。

（委　員）働きやすさ追求室において、企業の取り組みに関する冊子か報告書を作成しているのか。

（事務局）働きやすさ追求室に確認のうえ報告する。

（委　員）ＤＶ防止及び支援対策において、インターンシップの学生に啓発パネルを作成していただいたという報告があったが、インターンシップの学生からの感想などについて伺いたい。

（事務局）この施設自体を知らなかった学生さんが多い。また、ＤＶについても知識のない学生さんが多く、ＤＶとはそもそも何なのか、デートＤＶといってお付き合いしている段階での暴力もＤＶに当たるといったこともご存じない学生さんが多くいると感じたことから、自分でさまざまなことを調べながら、ポスターを貼ったり、掲示物を綺麗に飾ったりという機会を作ったことで、学生本人に対してもとてもいい啓発になった。ホームページにもアップしたので、これを機に周りの友達からも見ていただき、様々な方に周知する機会になったととらえている。

（委　員）学習事業のうち、自主企画講座の受講者は６０代７０代が多いと報告があったが、受講後の

アンケートの際、講座の開催時間を尋ねる項目があると思うが、そういった結果は反映していないのか。もっと若い世代の方にも聞いて欲しいような講座もあり、もったいないと感じた。

（事務局）自主企画講座の受講者について、昨年度は平日の開催も比較的多かったこともあり、６０代７０代が多いような状況であった。本年度は若い世代がご参加いただきやすい時間帯として、土曜・日曜を中心に企画したいと考えているが、今後ともアンケートの結果を事業の企画内容に反映させていきたい。

（委　員）「いのちの学習」について、山形では戦争経験者の方も少ないだろうと思うが、今年は戦後８０年ということもあるので、戦争のことをお話しいただくような内容も検討してみてはいかがか。

（事務局）いのちの大切さの伝え方については、様々な方法があると思うので、学校と十分に話し合った上で、効果的な伝え方を考えていく。

（委　員）先ほどの学習資料やいのちの学習について、小中の授業の内容等については、ほぼ前年度に決まってしまうので、学校とは２年間かけて内容等を相談して進めていったら良いと感じた。

（委　員）小中学生向け学習資料について、子供たちが家に持ち帰ってきても、親たちがまだまだ理解がない中では、子供たちへまた違う知識や環境に戻してしまうということもあると思う。
自分自身も子育てしながら知識不足と思うところもあったので、改めて子供たちや親たちに時間を割くことは難しいとも思うので、学校だけに負担をかけるのだけでなく、例えば事業所向けの出前講座の中で、学習資料の内容を説明する時間を設けて、育児をされている方、お子さんがいらっしゃらない方でも知識を増やしていく時間も入れていくのも良いと思ったがいかがか。

（事務局）出前講座では、その事業者で従業員の方を集めていただけるので、とても貴重な啓発の機会となると思う。今後も様々な場面で活用していくように考えていく。

（委　員）「いのちの学習」について、昨年度１０校は学校から要請があって選ばれているのか。親の立場としては、毎年、対象学年の子どもに聞かせてあげたい。センター事業以外で例えば学校独自で命の学習を行っているのなら問題ないと思うがいかがか。

（事務局）男女共同参画センターにおける「いのちの学習」については、市立小中学校すべてに受講希望のアンケートを取り、申込のあった学校・学年を選定している。昨年度も１０校以上の学校から申込があったが、数年実施してない学校を優先的に選定して実施している。
実施校をできるだけ増やしていきたいと考えているが、増やせない１つの要因として、講師がなかなかいらっしゃらなく、現状、本業をお持ちの先生方に、何とか時間をやりくりし、ご協力いただいている。今後も新たな講師の確保なども含め検討していく。

８　協議

令和７年度事業計画について

事務局より資料１に基づいて説明

―主な質疑―

（委　員）girl up!プロジェクトについて、広報やまがたで最初見たが、女性の人口流出を何とか食い止める、さあどうするみたいな感じでこういった企画を始めることをうれしいと思った。
現在の申込人数が４名と説明があったが、広報の仕方として、学校にもお知らせしているの

か。ある学校の探究部では、さまざま取り組んでいるようなので、学校への周知やチラシなどの配布方法を考えてはどうか。

（事務局）現在、市内高校に直接伺い、事業の説明とポスター掲示や生徒へのデータ配信等による周知の依頼を行っている。

（委　員）インスタグラム開設について、フォローされる方は、すでにファーラという場所を知っている方や機能を知っている方が多いと思うが、課題はファーラを知らない方にどう拡散していくかが必要だと思う。

例えば、前年度第４次プランの目標値に達しなかった会議室の利用人数や自主企画講座において若い世代の受講が少ないような説明もあったが、そのようなことも含めＳＮＳの活用が鍵なのではないかと感じた。

３０代４０代で起業したい方や、このようなアクションを周りに広げていくことが大切ということで活動されている方も非常に増えていると思うので、このような方への利点として、活動の場として活用することで、自分の活動を広げていけるといった方向性を示していければ、若年層への普及とＳＮＳを使っている方への拡散になると思ったがいかがか。

もう１つ、アカウントを拡散していくという点で、すでに市の事業などで関わっている影響力のある方に拡散・タグ付けいただき、自分もこのような活動に関わるからぜひチェックして欲しいなどのコメントがあれば、広めていただけると思うがいかがか。

（事務局）インスタグラムのフォロワーを増やしていきたいと思っているが、ファーラという施設を利用するメリットがわかるように周知していく必要があると今改めて思ったところである。

また、影響力のある方を起点にし、そこからさらに広めていきたいので、今後とも諦めずに発信していく。

また、委員の皆様からのご意見を参考にして、どんどん広めていきたいと思う。

（委　員）アイコンをどの年代の方を対象にしているかにもよるが、もう少し女性寄りや若者寄りなどかわいいキャッチするようなものに変えたり、メールや電話などもほとんど使わない方もいるので、インスタグラムのダイレクトメッセージの方で申し込みや問い合わせができますなどと本文に書いたり、各リーフレットの内容を読み込めるようにすると、効率が良くなると思うがいかがか。

（事務局）見た目で楽しめる、見るのが楽しくなるようにしつつ、利用しやすい作りにしていきたいと思う。ただし、インスタグラムの運用にも市役所内でさまざまな規定があるため、使える機能を最大限使っていきたい。

（委　員）困難な問題を抱える女性への支援について、新しく計画の中で具体的にどのような内容か。また、計画を立てるのか伺いたい。

（事務局）困難な女性の方への支援については、これまで実施していることは継続し、市の計画についても、来年度、次期男女共同参画計画の策定にあわせて、委員の皆様にご審議いただきながら策定していく予定であるため、今年度は策定のための情報収集をしていく。

（委　員）第４次プラン進捗状況のうち、県外と市の女性転出入者数の目標値がゼロという数字は挑戦的な数字と思っているが、次期の計画策定時には、この項目の目標をもう少し検討した方が良いのではと思う。例えば違う指標の表し方にするなどし、さまざまな施策を複数の部署で実施し、何もしていないわけではないので、次期プランに向けて少し時間かけて検討する必要があると思う。

（委　員）第４次プラン進捗状況のうち、市内中学校・高等学校における女子生徒の選択制服スラックスの導入校の割合という項目について、男子生徒のことはどうなっているのかと思った。市内中学校の男子生徒の制服はほとんど学ランが多いが、学ランを着たくないから、学校に行けないというお子さんのお母さんから実際話を聞いた。毎日制服登校ではなく、午前中に体育や技術系の授業のときは、体育着登校が許されている学校もある。体育着に関しては、大体の学校で男女差がほとんどないことから、体育着での登校はできるけど学ランを着て行けない、学校に行けないというお子さんもいるということだと思う。

学生服メーカーの調査によると、男子学生がスカートを履くということを許可している学校が３割程度あるということ。また、その中でスカートを選択している男子学生が１割ほどいるというデータもあり、ジェンダーレスの制服を導入している学校もあると伺っていることから、男子生徒への配慮、ジェンダーレス制服導入の項目なども検討いただきたい。

（事務局）現在のプランは令和３年度に策定したものになるが、この４年間で大分社会の動きも変わってきたと思う。性の多様性に関する理解促進に関しても、ここ数年でだいぶ変化してきたと思うので、次期プランの策定の際は、改めて委員の皆様でご審議ご検討いただきたいと思う。

７　その他

（委　員）困難な女性に関する支援について、山形県でも基本計画を作成し、さまざまな取り組みをしている。今年度新たな事業として、相談窓口の設置や無料の居場所の提供をしている。ぜひご承知おきいただきたく、本日「女性相談窓口のご案内」のパンフレットを配付した。

８　閉会　　遠藤副所長